

・南九州西回り自動車道川内道路(いちき串木野市下名付近)において、特殊な地盤(強酸性の変朽安山岩)であり、法面に変状(小段の張りコン亀裂等)が確認されていることから、TEC-FORCEアドバイザーを派遣し、今後の対策検討のため、現地診断をしていただき助言を頂いた。

参加者: 鹿児島大学 酒匂教授、井村准教授

## ●TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年10月23日)

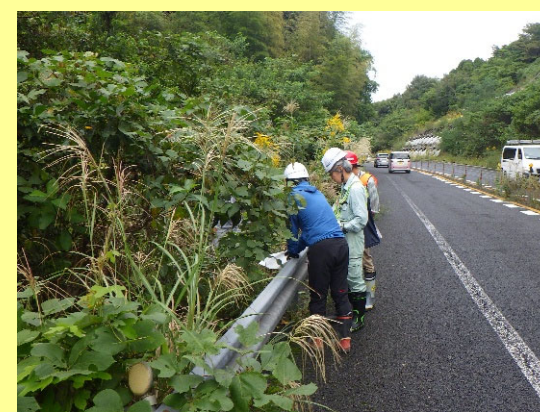
現地状況



現地診断状況(切土)



現地診断状況(盛土)



### 【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・対策を検討する際に、N値だけで考えずに、地質の性状も考慮すること。
- ・緩勾配に切土しても、再度表面の酸化や風化が進行する。
- ・水抜き横ボーリング工の流末パイプの補修は有効である。流末は既設のように1本にまとめた構造でパイプ内が詰まった状態では排水機能が低下しているため、孔毎に排水パイプで側溝へ導くこと。
- ・個別に箇所毎で検討しても、対策費用が嵩む一方なので、一度区間全体として対策方針を考えた方が良い。
- ・ルートに沿って細かく変状を確認し、優先度をつけてしっかり調査を行うこと。